

明日の都市

●都市づくり・そのアイデア・発想——20

監修 磯村英一

編集 坂田期雄

中央法規出版

都市づくり・そのアイデア・発想 明日の都市 vol.20

昭和56年2月15日 発行

定価2,800円(送料実費)

監修 磯村 英 一

編集 坂田 期 雄

発行者 荘村 正 人

発行所 中央法規出版株式会社

〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4

☎03(379)3861(代) 振替東京7-23057

【営業所】

札幌 〒062 札幌市豊平区豊平3条3-12(美好ビル) ☎011(823)4121

仙台 〒980 仙台市大町2-9-22(円栄ビル) ☎0222(22)1693

岐阜 〒502 岐阜市山吹町1-6-1 ☎0582(31)8743

大阪 〒530 大阪市北区天神橋3-8-14(大扇ビル) ☎06(351)9079

広島 〒730 広島市南区南蟹屋1-8-12(上仙ビル) ☎0822(82)8416

福岡 〒810 福岡市中央区六本松1-2-22 ☎092(713)0520

(福岡県社会福祉センター内)

印刷・製本/太洋社(株)

0336-412001-4637

落丁・乱丁本はお取替いたします。

監修のことば

都市問題に関する全集は、これまでもいくつか刊行されたものはあるが、今日、都市の抱える問題とその環境は、当時と様相が一変している。

これまでの中央の時代にかわって、地方の時代、分権と参加という大きな潮流と要請の中で、都市はいま、かつてなかった歴史の大きな波に洗われている。

これからどのような方向に新しい都市づくりを進めて行くのか、大都市、大都市圏、地方圏ごとにそれぞれ異なるさまざまな問題——人口の急増、抑制、減少、都市と農村というかつての地域構造の変化、その中で新しい地域経済の方向の模索、そして雇用場の確保、土地と住宅問題、ゴミ・廃棄物、防災、エネルギーの問題等、数多くの問題の解決を迫られている。他方、都市づくりを支える市民の参加と連帯、コミュニティ、地域福祉、さらに自治体自体の問題として市長、議会、公務員問題等、今日の日本のあらゆる問題がすべて都市に集約されている感がある。

このような状況をふまえ、今回、

・ 八〇年代から二一世紀への展望の上に立って

・ 今日の都市の問題を鋭く摘出し、明日への方向を示唆する

・単なる論説、論文でなく、全国各都市がいま手探りで試みるさまざまな実験例をできるだけ拾い、その上に立ったものとする

等の方針の下に、「明日の都市」全二〇巻が編集されることとなったものである。

これが完成すれば、おそらくわが国の歴史に長く残る貴重な文化的資産となるのではなかろうか。

今後、順次刊行される各巻は、それぞれの権威ある多くの方々の御協力によってつくられるのであろうが、是非ともこれら各界の惜しみない力・応援を戴いて、二一世紀に向けてのこの大事業が是非とも立派に完成されるよう心から念願してやまない。

昭和五四年六月

磯村英一

(東洋大学学長)

序

「中央の時代」から「地方の時代」へ、そして「都市の時代」へ——歴史の大波はいま日本を、全国の都市を音を立てて洗っている。

社会、経済、文化、人間の意識、価値観全てが大きく変革するなかで、八〇年代から二一世紀にかけて「明日の都市はどうなるのか」、「どういう方向にどういう方法で進めば良いのか」。いま各都市は手探り模索しながら、さまざまな試みと実験のなかを歩いている。

これまでは、国からの法令、通達、指導といった教科書・お手本があったが、いまでは頼るべきものがない。ある意味で、今日の都市自治体は日々これ「未知との遭遇」でもある。しかも、じっとしていることは許されない。道を開いて前へ進まなければならない。

このような時に、今回、中央法規出版(株)が「明日の都市」というテーマで、今日、都市が直面する重要な問題に正面から取り組み、全二〇巻という意欲的かつ画期的な一大企画を打ち出されたことは誠に喜ばしい。おそらく、わが国でこれまで類のない初めての試みではなからうか。

ところで、この企画・編集の一端に図らずも私も参加させて戴くこととなったわけだが、これは中央法規出版(株)の社長、副社長や片岡氏とは以前からおつきあいをさせて戴いていた関係上、たまた

ま「是非に」とこの話を持ち込まれたため、お断りし難くお引き受けした次第である。

もちろん、都市問題の研究の一端に携わる者として、今回の企画は従来にないものだけに非常な魅力を感じ、是非やってみたいと気持ちだけは強く動いたが、歴史的大事業とも言うべきこの企画、私如き微力ではとても及ぶものではない。そこで、各巻毎の編集は、その道の権威、スタッフの方々の十分なお力を戴くこととし、私としては、

①全体を通ずる企画、編集、調整を分担する

②そして、本全集全体の主眼としては、「これから起きる問題は何か」、「何がどのように変わるのか」——わが国がかつて経験したことのない歴史的な大変革の流れを直視しながら、現在の「問題と課題」、さらに明日の都市への「展望と提言」を行う

③また、これが単なる論文・意見集に終わらないよう、実務・実態の上に立ったものとする。そのため、いま各都市が試みているさまざまな実験例、その成功と失敗、苦悩の状況を全都市から集録し、貴重な情報・データの集大成の役割をも持たせる
こととした次第である。

さて、このような考え方に立ち、その具体的な編集方針として、次のような点に重点を置くこととした。

(1) わが国の最高権威、最高スタッフ——学者、実務家を総動員すると共に、一般市民の優れたセンス、専門家には見られないアマチュアリズムの貴重な眼をも取り入れ、それらを総合したものとして構成する。

(2) “明日”という視座に立ち、八〇年代から二一世紀にかけての都市の姿、それへの道程をなるべ

く明確に浮き彫りにする。

(3) 都市経営の最高責任者である市長には、できるだけ御執筆、御発言をお願いし、いま、地方の時代と言われる中で新しい道を先頭に立って切り開いておられるその御苦労、お悩み、貴重な御体験ともいうものを発表して戴く。それによって、力強い地方からの声、地方の力というものを、このシリーズを通じて結集する。

今日、各都市が切実に求めているものは、明日に向かって進むそれぞれの都市の状況の情報である。それは単なる統計資料ではなく、都市が苦しみながら日々生み出しているナマの実例・ホンネの声である。いま各都市は、これまでの制度、法令の時代から漸く脱け出して「ホンモノ」の地方自治を求め、作りたいという方向に大きく変わってきている。

「明日の都市を今日作る」ために、本書が多くの方々に利用され、お役に立つことができれば誠に幸いである。

昭和五四年六月

「明日の都市」企画編集責任代表

坂田 期雄

東洋大学教授

都市経営総合研究所長

(前)日本都市センター
研究室長

「都市づくり・そのアイデア・発想」について

は し き

「明日の都市」(全二〇巻シリーズ)の第二〇巻「都市づくり・そのアイデア・発想」が、第一一回配本としてここに刊行される運びとなった。

この巻は、もともと最終回配本の予定であったが、昨年(昭和五五年)夏以降、全国各都市からさまざまな都市づくり、ユニークな都市づくりの実験例が相次いで当研究所に寄せられ、しかも一日も早く刊行して欲しい、との声が非常に強くなってきたので、これらの方々の要望に答え、ここに予定を変更、繰り上げ発行されることとなったものである。

さて、本巻の構成としては、第一部「都市づくりへの挑戦——そのアイデア・発想」では、まず座談会で、これまでの都市づくり、とくに新産業都市の成果と反省を踏まえた上で、これからの三全総定住構想等の方向とその課題を大胆に御提言戴いた。また、論説では、都市づくりのアイデア・チエ・発想あるいは都市の演出といった観点から、それぞれ御専門のお立場からの極めて新しい、しかもユニークな御提案を積極的に戴いたものである。

つづいて第二部「広域的な都市づくり」では、広域市町村圏の問題に焦点を合わせ、まず座談会に

において現在の問題点を率直に自由に討議して戴くとともに、あわせて全国府県、市町村の関係職員七〇名の方々から寄せられた各広域圏のナマの声、その状況報告「広域市町村圏の実態と課題」をまとめた。全国各地の広域市町村圏の今の実情についてそれぞれの関係者が「どういう眼でみているか」——そういう意味でこれはこれまでにない、かなり興味深いものではないかと思っている。

さらに第三部「あすの都市デザイン——街角の美学」は、昭和五三年から五四年にかけて山陽新聞に連載された「都市のデザイン」の執筆者である柳生、小山岡氏にお願いし、今回あらためて小樽市、東京原宿、神戸市等の都市を現地調査の上、まとめて戴いたものである。

第四部「新しい都市づくり・アイデア——その実際例」は、昭和五五年七月から十一月にかけて、多くの都市やまた府県関係者からの非常な御協力によってでき上がったものである。前々回配本の「地方自治の実態と財政」の中の「地方の時代——その総実態分析」にもみられるように、今日、各都市とも、チェやアイデアの面では先進自治体の実験例やその情報を非常に大事なものとして求めている。その意味において、ここに各都市から寄せられた数多くの実際例は、これからの都市づくりにおいて重要な指針、手がかりを与える極めて貴重なものになるのではないかと思われる。

ただ、各都市からご送付を戴いた事例や関係資料は当初予想したものをはるかに超えて、大変膨大なものとなり、そのためその全部をここに掲載することができなくなった。そこで、それらの中から「地域開発」に関するものは第一八巻「都市と地域経済」に、「コミュニティ」に関するものは第一〇巻「都市とコミュニティ」に、「防災」に関するものは第一六巻「都市と防災・安全」に、「福祉」や「教育」に関するものはそれぞれ第一五巻「都市と福祉」第一二巻「都市と教育」などに分けて紹

介させて戴きたいと思っている。御熱心に資料をお送り戴いた関係の府県、市町村の方々に厚く御礼申し上げる次第である。

なお、第五部「読者からの都市づくり・そのアイデア・発想の提言」は、読者から寄せられた提言（投稿）について、その審査結果の発表である。ただ、紙数の関係上、この巻ではその概要の紹介にとどめ、優秀作品の内容全文は、次回配本「都市とコミュニティ」に掲載させて戴くこととしたので御了承を賜りたい。

最後に、本書が「明日の都市づくり」を考える方々、あるいはその仕事に携わっておられる方々に少しでもお役に立つところがあるとすれば、編集責任者の一人として、心から喜びとするところである。

昭和五六年一月

坂田 期雄

明日の都市
vol. 20

都市づくり・そのアイデア・発想

第一部 都市づくりへの挑戦

——そのアイデア・発想

（座談会）

「都市づくり」——これまでの反省と今後の課題…………… 1

伊藤 滋（東京大学工学部助教授）
本吉庸浩（讀売新聞社論説委員）

本間義人（毎日新聞社編集委員）
磯村英一（東洋大学学長）

1 新産業都市は

現在の町づくりにどう定着したか 1

- 2** これからの都市づくりのあり方
——その方向と課題 18

(論説)

- I** 都市づくり・見直しの時代……………磯村英一(東洋大学学長)……………31

- 1** 都市づくりとは何か 31

- 2** 都市づくりの基本的欠陥 35

- 3** 都市づくりへの提言 39

- II** 地方都市の“特化”と“演出”を……………堺屋太一(作家)……………42

- 1** 地方の時代とはどんな時代か 42

- 2** 中央集中の時代は終わった

——諸条件が逆転——これからは群化の時代 45

- 3** ミニ東京、規格品型の都市づくり

——これまでの欠陥 53

- 4** 産業首都を育てる 58

- 5** 誇りと豊かさを創る都市の演出 62

Ⅲ 都市と人間

——中間領域を大切に……………黒川紀章（建築家）……………77

1 反都市主義の気運 77

2 作られた都市に対する不満 81

3 都市の共存 85

4 歴史との共存 88

5 年齢の共存 92

6 中間領域を大切にする 94

Ⅳ 人間が描かれていない都市計画……………下重暁子（評論家）……………99

1 これまで欠落していたもの 99

2 これからの都市づくり

——もっと全体を、そして自然を生かす 102

V 博物公園都市 “遠野ピアプラン”

——まちづくりの実際をみる……………大久保圭二……………106

（朝日新聞地方
問題総合取材班）

VI	個性ある地方都市の創造……………	渡部与四郎（筑波大学教授）……………	123
----	------------------	--------------------	-----

まえがき 123

1	都市における「個性」	124
2	地方都市における「力」	128
3	地方都市をつくるプロセス等	132
	むすび	135

VII	緑豊かな「ふるさとの森」づくりを……………	宮脇 昭（横浜国立大学教授）……………	137
-----	-----------------------	---------------------	-----

1	人間の共存者による環境創造	137
2	どのようにして「ふるさとの森」をつくるか	139

VIII 都市づくりのパターンとアイデア

——各都市の実例からみる…………… 坪井良一（元讀売新聞論説委員）…………… 147

1	都市づくりの主体、パターン、アイデア	147
2	都市づくりのアイデア、その実際	152

(1)	個性創出型	152
(2)	地域振興型	154
(3)	目玉政策型	156
(4)	コミュニティ型	159

IX 市民憲章を自治体憲法に

——都市づくりへの提言………塩見 譲（日本経済新聞編集委員）………	161
-----------------------------------	-----

X ユニークな都市づくりへの挑戦

——国土政策への期待と地方の努力と………青木 茂（豊橋市長）………	164
-----------------------------------	-----

1 都市づくりと国の役割 164

2 地方の側の姿勢と国の援助 167

3 豊橋市での都市づくり実践例 168

XI 人吉市の自然公園都市構想と

市民百人委員会………永田正義（人吉市長）………	173
-------------------------	-----

1 自然公園都市構想 173

2 市民百人委員会 177

XII 都市とサイン

——街のイメージをつくる……………茶谷正洋（東京工業大学教授）……………181

吉田親史（東京工業大学大学院）

- 1 サインの分類 181
- 2 公共サイン・商業サイン・シンボル 183
- 3 サインと文化 193
- 4 サインと都市環境 195

第二部 広域的な都市づくり

《座談会》

これからの広域的な都市づくり

——どう進めるか……………199